

「スクリーニング」を実践したA中学校の事例

A中学校では、「誰一人取り残すことなく、すべての生徒が自立に向けて一步一步成長できる学校づくり」を重点努力目標の一つにしています。これを実現するための取組の一つとして、「スクリーニング」を実施しました。

スクリーニング・シートの工夫

A中学校には、1学年あたり7クラス、約250人の子供が在籍しています。このため、各学年に関わる学級担任、教科担任等も多くいます。そこで、スクリーニング会議を短時間で効果的に行うことを考慮し、次のような工夫をしました。



A中学校のスクリーニング・シートはこちらからダウンロードできます。

学級	学級担任が入力				各教科担任が入力													学級担任+学年の教員で入力				総合点		
	欠席(点)	遅刻(点)	早退(点)	保健室来室(点)	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技・家	英語	身なり	忘れ物	行事	反応	給食	部活動	対生徒	対教師			
1101	○	○			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
1102	□	□	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	35
1103	△	△			2																			10

【工夫①】欠席等を数値化

「総合点」でチェックできるように、欠席、遅刻、早退の日数や保健室来室の回数を数値化しました。
10日(回)以上…2点
5日(回)以上…1点

【工夫②】多くの目で見

すべての教科担任から情報を集めました。
① 授業での取組の様子
② 忘れ物等
③ 成績の変化

【工夫③】効率化を図る

身なり、忘れ物、行事への取組、挨拶や会話の反応、給食の食べる量等の8項目に精選しました。

【工夫④】「気付き」を簡単に示す

教師の「気付き」を迷わず表現できるように、入力を2段階とし、成長や改善は●で表すようにしました。
大変気になる…2点
気になる…1点
成長や改善…●印

【A中学校が作成したスクリーニング・シート】

スクリーニング会議の実施

学年会議の時間を利用して、スクリーニング会議を行いました。会議の流れと参加した教師の声を紹介します。

スクリーニング会議の流れ(1学級10分×7学級 計70分)

- ① スクリーニング・シートをもとに、各学級10分で、気になる子供について意見交換を行う。
- ② ケース会議等を行う必要がある子供を確認する。



「総合点」が30点を超えるような子供には、すでに何らかの支援がされていました。10点前後、または、それ以下の子供にも目を向ける必要があると感じました。



「スクリーニング」のデータが蓄積されていけば、次年度への引継ぎの際に、子供の状況や教師の気付きをより明確に伝えられると感じました。繰り返し取り組んで行きたいです。



教師によって見立てが異なっていることが分かりました。今後は、他の教師の視点も取り入れて、子供を見つめたり、語りかけたりしてみようと思いました。



スクリーニング・シートの項目を変更したり、配点に軽重をつけて4点の項目を作ったりすることで、より本校の実態に合った「スクリーニング」になると感じました。

すべての子供の居場所となる学校教育の推進

～「スクリーニング」を活用した未然防止・早期発見のための取組を通して～

学校は、子供の困り感を含めた今の状況をとらえようと、教育相談や生活アンケート等、様々な取組を行っています。子供が主役となる学校を実現するためには、「どれだけ子供のことを理解しているか」が極めて重要です。

そこで、本リーフでは、教育の原点に立ち返り、「教師の目」に着目します。子供を毎日見ている教師の強みを生かして、「ちょっとした変化」や「小さな成長」に目を向け、その気付きを支援に活用する方法としての「スクリーニング」を紹介します。

「スクリーニング」とは

子供たちの日々の様子を複数の教師の目で確認していくことで、リスクの可能性のある子供を洗い出し、適切な対応につなげられるようにすることです。

1 「スクリーニング」の効果

【効果1】すべての子供を見つめることができる



個別の課題が認知されている子供

欠席の増加や生活アンケートの記述、保護者からの相談等をきっかけに、個別の課題が認知された場合は、学年会議等で情報が共有され、対策組織の会議やケース会議等につなげることができます。

「ちょっとした変化」や「小さな成長」のある子供

子供の訴えや相談等がない場合でも、「スクリーニング」を行うことで、一人一人の「教師の目」を通じた気付きを共有し、子供の「ちょっとした変化」や「小さな成長」を見つめることができます。

【効果2】「教師の目」と「チーム力」が強化される

「教師の目」の強化

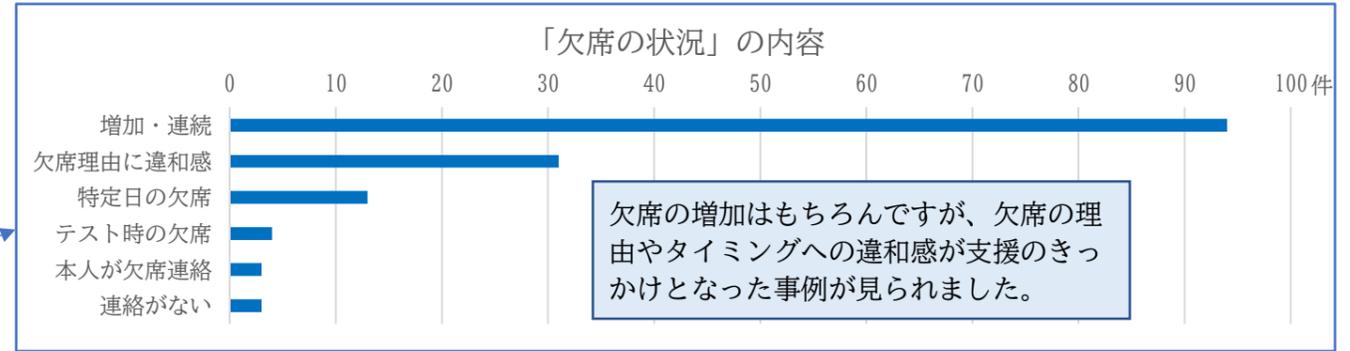
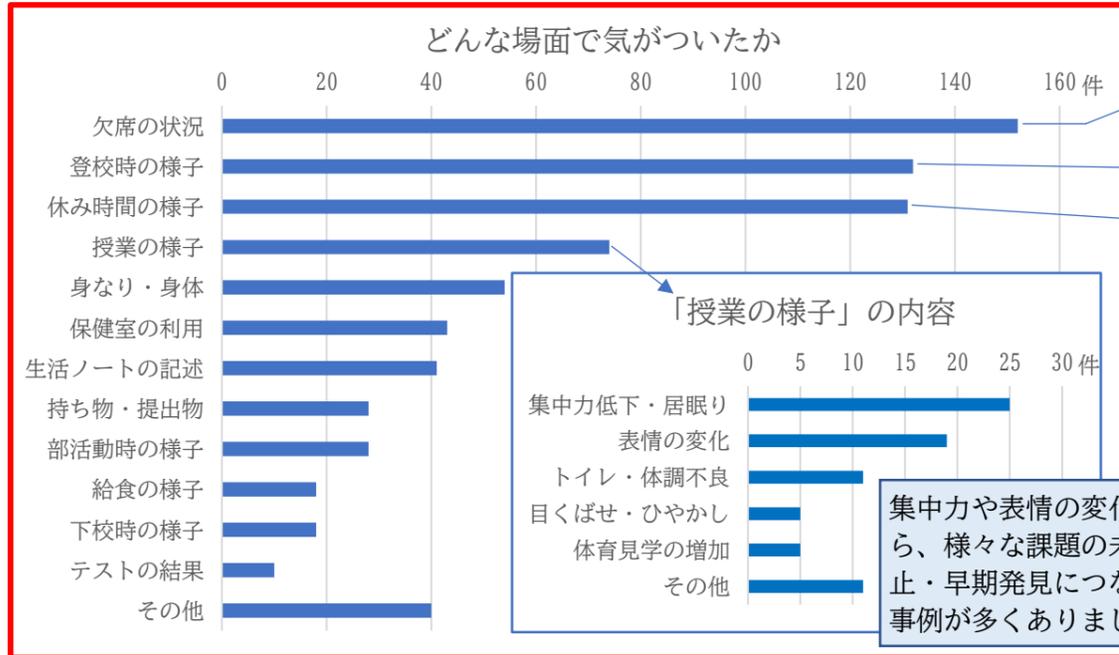
一人一人の子供を思い浮かべながら「スクリーニング」を行うことで、子供を見る「教師の目」が養われます。さらに、「スクリーニング」を通して情報を共有することで、先輩や同僚がどのような場面で、どのような変化を見ているかを学ぶことができます。

「チーム力」の強化

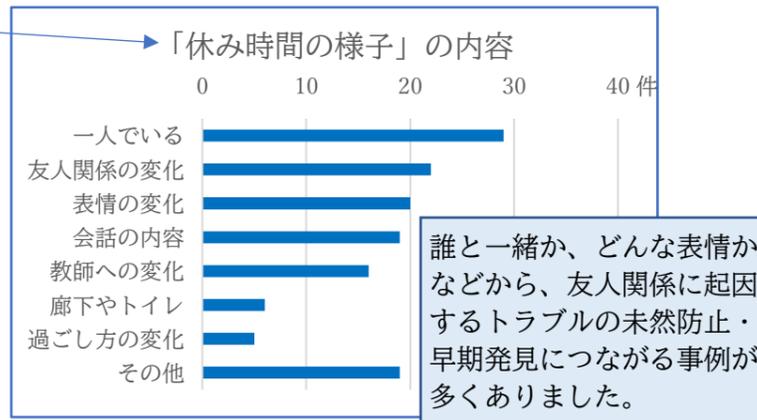
スクリーニング・シートを持ち寄って、それぞれの視点による情報を共有することにより、チームとしての対応をより効果的に行えるようになります。また、互いの気付きを共有し、助言し合ったり、協力したりするなど、教師の同僚性を高めることができます。

2 未然防止・早期発見につながった教師の目

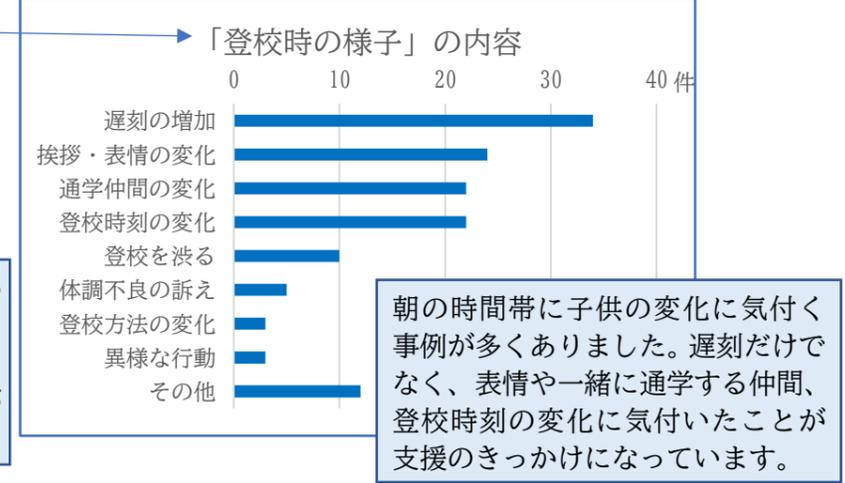
スクリーニング・シートに並んだ項目は、教師が子供を見る視点であると言えます。令和5年度児童生徒支援加配教員研修会において、約150人の参加者から約700例の「子供の様子を見つめることで、未然防止・早期発見につながった好事例」が報告されました。これを次のように分類しましたので、スクリーニング・シートの項目を設定する際の参考としてください。



欠席の増加はもちろんですが、欠席の理由やタイミングへの違和感が支援のきっかけとなった事例が見られました。

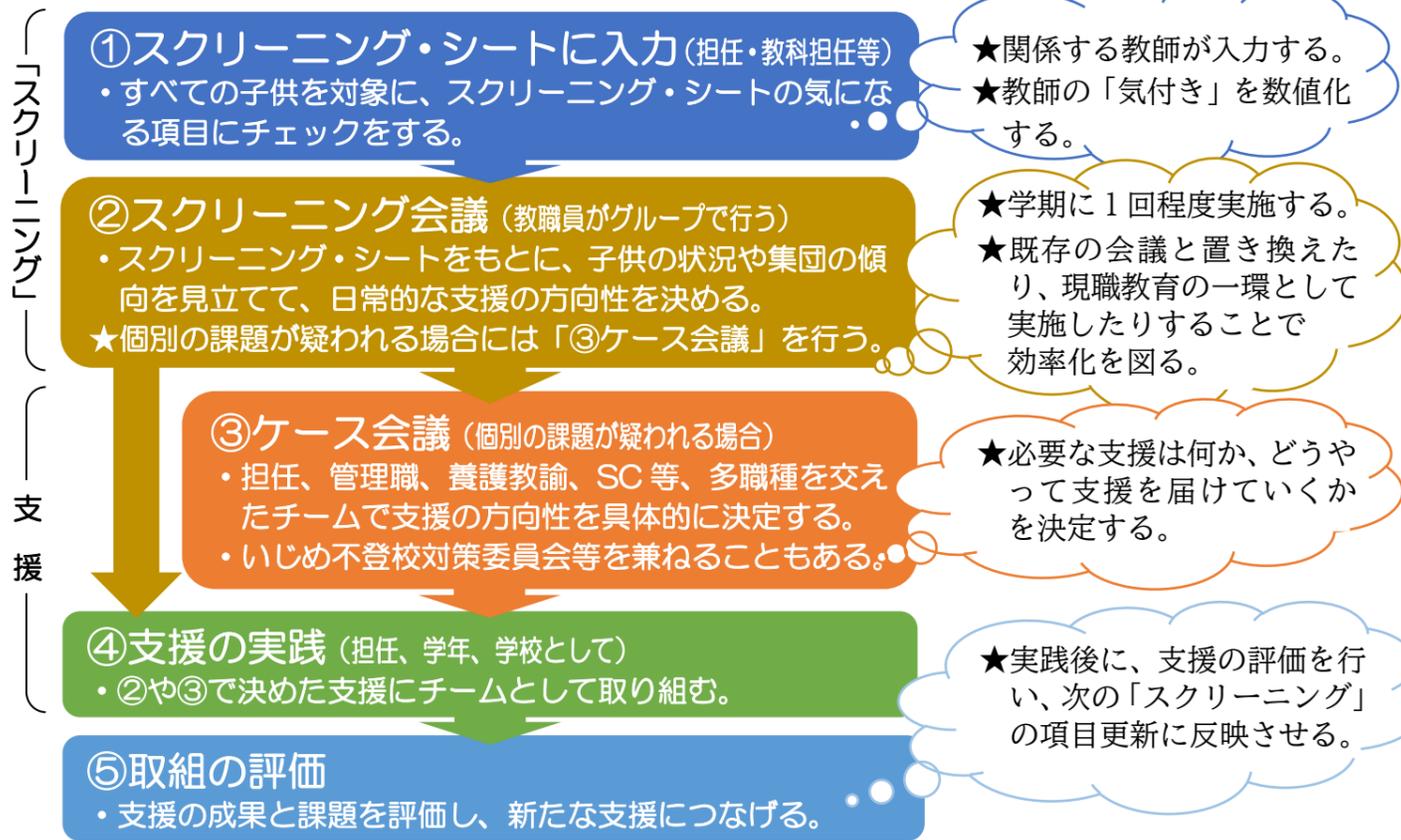


誰と一緒に、どんな表情かなどから、友人関係に起因するトラブルの未然防止・早期発見につながる事例が多くありました。



朝の時間帯に子供の変化に気付く事例が多くありました。遅刻だけでなく、表情や一緒に通学する仲間、登校時刻の変化に気付いたことが支援のきっかけになっています。

3 「スクリーニング」にもとづく支援の手順



参考：スクリーニング活用ガイド ～表面化しにくい児童虐待、いじめ、経済的問題の早期発見のために～
 文部科学省 (作成 大阪府立大学山野則子研究室) ※現在は大阪公立大学

4 スクリーニング・シートの工夫

スクリーニング・シート (案)

1年 番号	氏名	成績 (学年成績担当)						欠席等 (養護教諭)				変化や違和感 (学級担任+教科担任等)								総合							
		5科テスト点			9科評定			欠席 (日)	遅刻 (日)	早退 (日)	保健 室 入室 回数	欠席 理由	登校時	授業	休み 時間	給食	身なり 身体	生活 ノート	持ち物 提出物		部活動	その他					
1101	〇〇 〇〇	375	380	200	230		32	26		12	10		10	1	2		2										10
1102	□□ □□	305	298	288	299		27	26		1	1		2		2	1											4
1103	△△ △△	68	110	70	60		13	12		26	18		10	2	2	2	1	2	1	2							21
1104		テストや通知表、健康観察や出席簿等のデータを連携させて、入力時間を短縮するなどの工夫があるとよいでしょう。										学級担任、教科担任等が入力する。変化や違和感を感じた場合には、数字のみ入力します。説明が必要な場合は、会議で補足します。								0							
1105																				0							
1106																				0							
1107																				0							
1108																				0							
1109																				0							
1110																				0							
1111																				0							
1112																				0							
1113																				0							
1114																				0							
1115																				0							
1116																				0							
1117																				0							
1118																				0							
1119																				0							
1120																				0							
1121																				0							
1122																				0							

※5科テスト点は100点未満もしくは前回より50点低下で1点 ※欠席・遅刻・早退保健室入室数は5回以上で1点 ※9科評定は1.8未満もしくは前回より5点低下で1点 ※変化や違和感 2点：大変気になる 1点：やや気になる ●：小さな成長や頑張っている (点数なし)

【各項目の視点例】
 欠席理由・・・欠席や遅刻、早退等の理由に違和感がある、特定日に欠席をする
 登校時・・・登校時刻の変化、通学仲間の変化、登校時の挨拶、登校直後の体調不良
 授業・・・集中力や意欲の変化、発言の変化、学習班の変化、周囲の反応、トイレに行く、体育の見学
 休み時間・・・一人で過ごす、仲間の変化、遊ぶ内容の変化、会話の内容、トイレにこもる、教員との関りの変化
 給食・・・食べなくなる、異常に食べるようになる、空腹の訴え
 身なり・身体・・・季節外れの長袖、リストバンド、包帯、汚れ、ニオイ、けが、絆創膏、隠すくさ、頭髪の乱れ
 生活ノート・・・記述内容、記述量の変化、提出状況の変化、文字の乱れ
 持ち物・提出物・・・未提出や忘れの増加や変化、取組内容の変化
 部活動・・・帰りの時間になかなか部活動に行かない、遅刻や欠席、意欲の低下

スクリーニング・シート(案)はこちらからダウンロードできます。

【スクリーニング・シート (案) について】
 この案は「変化や違和感」欄を、登校時や授業、休み時間といった場面に分けています。これは、学校生活の様々な場面で子供の「ちょっとした変化」や「小さな成長」に気付こうとしているからです。このほかに、例えば、いじめ等の特定の課題を見つけようとする場合は、人間関係を問う項目を入れるというように、学校の実態に合わせて項目を工夫することも大切です。
 個別の課題が認知されている子供は「総合点」が高くなりますが、比較的「総合点」が低い、個別の課題がまだ十分に認知されていない子供に着目して、スクリーニング会議を行うとよいでしょう。